

図画工作科学学習指導案

指導者 高橋 彩

1. 日時・場所 令和3年10月14日(木)第2・3校時 場所 2年3組教室
2. 学年・組 第2学年3組29名
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」
○感じたことや想像したいことから表したいことを見付け、思いのままに表す。
○活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。
【A表現(1)イ(2)イ】【B鑑賞(1)ア】

子どもたちの姿

- 工作や立体を作ったり、絵を描いたりすることが好きな児童が多い。
- 「くしゃくしゃぎゅっ」の紙をくしゃくしゃにした感覚から、作りたいものを想像して制作する活動では、すぐに活動に取り組める児童がいる一方で、手が止まってしまう児童もいた。
- 友達の作品が気になる児童が多く、活動中にも友達の作品を観て、アドバイスをしたり、アイデアを取り入れたりする。
- 友達と自分の作品を比べ「下手だから」「だめだ」と発言する児童もいる。

教師の願い

- 本題材では、既成の概念にとらわれずに「小さなともだち」が楽しく暮らす様子を想像しながら、自由に発想し、身近な箱や材料を活用し、思いのままに表す活動を行ってほしい。
- 本学級の児童は、自分の作品に自信がない児童が多い。皆に紹介することが苦手な児童が多い。この活動では、「小さなともだち」をお互いに紹介したり、ともだちのお家に出かけたりする中で、積極的に友達同士の作品の良さを「小さなともだち」と遊ぶ中で味わい、自分の作品に自信をもってほしい。
- 想像した家を作製する中で、思いのままに表現することの楽しさや面白さを味わって、創作活動を楽しんでほしい。
- 友達の「ともだちハウス」を鑑賞して、友達が表現したものの面白さや楽しさを感じ、見方や感じ方を広げてほしい。

題材名

わくわくともだちハウス
～「小さなともだち」が楽しくすごせる おうちをつくろう～

題材目標

- 空き箱を使って「小さなともだち」の家をつくる時の感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付くようにし、はさみ、木工用接着剤などの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせるようにする。
- 「小さなともだち」に触れて感じたことや想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考え、自分たちの作品の造形の面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。
- 集めた材料を工夫して、「小さなともだち」の家をつくる学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養うようにする。

○題材について

この時期の児童は、身近にある材料を並べたり積んだり、進んで材料などに働きかける姿が見られる。また、夢が広がる発想をしたり、空想したりすることを楽しんだりする姿も見られる。本題材では、そのような児童の実態を踏まえ、身近な空き箱に目を向け、筒状のもの、円のもの、平らなものなど、いろいろな形、色の材料を集める楽しさを味わってほしい。そして、「小さなともだち」が楽しく暮らす様子を想像しながら、集めた空き箱を活用してつくりだす力を育む。

○「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材との関連

タブレット端末に入っているロイロノート（アプリケーション）を使用し、「小さなともだち」の紹介カードの制作や端末のカメラを使って写真を撮影する活動を通して「小さなともだち」に愛着をもったり、想像を膨らませたりできるようにする。創作活動中には「小さなともだち」をそばに置き、空き箱の形に触れ、表したいことを見付け、思いのままに表すことができるようにする。

ロイロノートを使用し、制作中の「小さなともだち」を紹介したり、友達の家に遊びに行く活動をしたりする活動を通して、お互いの表現したものの面白さや楽しさを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。

4. テーマに迫るために

研究主題

感性豊かに生きる力をはぐくむ
～ 感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～

部会テーマ

思いのままに つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

児童の想像を膨らませるために、「ともだちハウス」に住む「小さなともだち」を、自分たちで見つけるようにする。「小さなともだち」に愛着をもてるように、紹介カードに名前や好きなものを書く。友達の「小さなともだち」に興味をもてるように、「ともだちハウス」が完成するまで、教室に「ともだちテント」を設置したり、ロイロノートを使って紹介カードを共有したりする。いろいろな形や色の空き箱を用意し、児童に提示することで、「ともだちハウス」の想像を膨らませることができるようにし、早く集めたいという気持ちをもつことができるようにする。題材名の「わくわく」を工夫することで、「ともだちハウス」の完成のイメージをもてるようにしたり、空き箱の見方を広げたりできるようにする。

○場の設定の工夫

タブレット端末を使って、友達と一緒に「小さなともだち」が好きな場所で写真を撮影する活動を行う際に、写真を撮影する場所を校舎内に限定することで、緑の図工マットをジャングルに見立てる等、見立てる経験を増やし、空き箱を使った「ともだちハウス」の制作の時に生かせるようにする。創作活動の時には、テレビに「小さなともだち」の紹介カードを表示しておき、すぐに情報をみることができるようにする。教室の混雑を避けるために、共有の材料は、廊下の机に配置する。休み時間にも、空き箱の形や色に触れられるように、空き箱入れを廊下に設置する。自分の見方や感じ方を広げることができるように、創作活動をする時には、お互いの作品をみて、話しをしてもいいことを伝える。相手の表現したものの面白さや楽しさに触れることができるように、制作中の作品を皆が見えるところに置き、休み時間等にも鑑賞することができるようにする。

○共感的支援の工夫

「ともだちハウス」の制作中に、「この箱は、何に使えそうかな。」「この箱は、何に見えるかな。」等の声かけをして、想像ができるようにする。また、「何を作っているの?」と声掛けをし、児童が制作しているものの話しを聞き、制作を手伝ったり、一緒に考えたりする。

○小中一貫の視点

低学年で材料を集める力や箱を組み合わせる力を養うことで、中学年・高学年では、材料を工夫する力につなげる。また、思いのままに表す活動の楽しさを味わうことで、楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培うことにつなげる。

5. 題材の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 「小さなともだち」の家を空き箱等を工夫してつくるときの感覚や行為を通して、様々な形や色、触った感じなどに気付いている。(知識) はさみ、木工用接着剤などの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> 「小さなともだち」に触れて感じたことや想像したことから表したいことを見付け、「小さなともだち」の好きな形や色を選んだり、空き箱を使って「ともだちハウス」の形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。(発想・構想) 「ともだちハウス」の造形の面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。(鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> 「小さなともだち」の家を表現したり鑑賞したりする活動に取り組む、つくりだす喜びを味わうとともに、空き箱の形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとしている。(主体的)

6. 指導と評価の計画 6時間

ア 「小さなともだち」に愛着をもつ。(45分)

イ 材料を並べたり積んだりして、「小さなともだち」の家をつくる。(180分)

ウ 友達におすすめの場所の紹介、友達の家にお出かけする。(45分)

	子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知 技	思 判 表	主 体 的
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○「ともだちハウス」の完成イメージをもつ。 ・空き箱なら、家にありそう。 ・どんな箱を集めようかな。 ○「小さなともだち」を探す。 ・どんぐりでもいいの？ ・石を拾いたいな。 ・消しゴムにしようかな。 ・お道具箱の中に隠れていないかな。  <p style="text-align: center;">ともだち テント</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○日本文教出版の『すがこうさく』の教科書p50をみて、児童が「ともだちハウス」の完成イメージをもてるようにする。 ○「小さなともだち」に愛着をもてるように、自分たちで見つけるように声を掛ける。 ○教師の「小さなともだち」を紹介し、「小さなともだち」のイメージがもてるようにする。 ○「小さなともだち」が用意できなかった児童のために、ペットボトルのキャップや調味料入れ、木製のクリップを用意しておき、児童が選択できるようにする。 ○「小さなともだち」を「ともだちテント」に入れ、皆の友達を見ることができるようになる。 ○いろいろな形や色の空き箱を用意できるように、いろいろな形や色の空き箱があることを紹介しておく。 	●	●	●

ア 皆の「小さなともだち」を教えてね。

- 「小さなともだち」に名前を付ける。
- タブレット端末を使って、「小さなともだち」が好きな場所を探して、写真をとる。
- ロイロノートを使って、「小さなともだち」の紹介カードの制作をする。
 - ・お菓子が好きなんだよ。
 - ・水色が好きなんだよ。
 - ・ジャングルに住んでるよ。
- ロイロノートに紹介カードと写真を提出する。
- 友達の「小さなともだち」の紹介カードをみる。

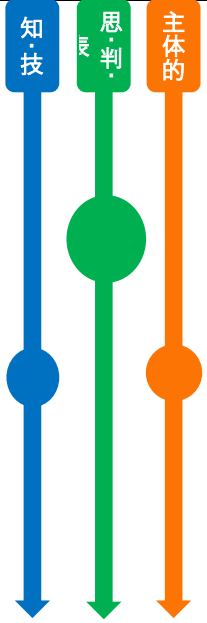
思・判・表

- 「小さなともだち」に触れて感じたことや想像したことから表したいことを見付けている。
- 【紹介カード・発言】

○「小さなともだち」に名前を付けたり、好きなものを考えたりする活動を通して、児童が「小さなともだち」に愛着が持てるようにする。

○写真を撮影する場所を校舎内に限定し、見立てる活動を取り入れて、児童が見方を広げる経験ができるようにする。

○友達と一緒に活動することで、友達の考えや表現を取り入れて、「小さなともだち」について想像が膨らませることができるようにする。



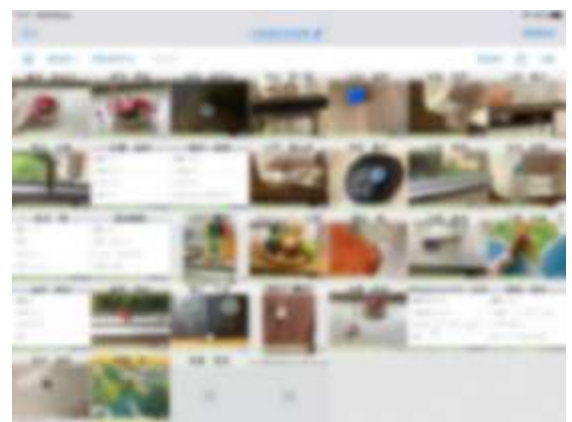
(例) 紹介カード (上) と写真 (下左) ロイロノート共有画面 (下右)

名前 かあいいこども

すきな色 カラフル

すんでいるところ つめたいいいさ

そのほか フールかき



1 (導入45分)

イ 「小さなともだち」のためのおうちを作ろうか。どんなおうちがいいかな。

2
3
4
5 (展開180分)

- 空き箱で「小さなともだち」が住む「ともだちハウス」をつくる。
- ・私の友達は、お花が好きだから、お花いっぱいの家になりたいな。
- ・赤色が好きだから、赤色の家になりたいな。
- ・冒険が好きだから、秘密の部屋をつくりたいな。
- 「小さなともだち」が楽しくすごせるように部屋を飾りつける。
- ・森みたいになりたいな。
- ・たくさんご飯を置きたいな。
- ・トランポリンがほしいな。

思・判・表

- ・「小さなともだち」に触れて感じたことや想像したことから表したいことを見付け、「小さなともだち」の好きな形や色を選んだり、空き箱を使って「ともだちハウス」の形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。
- 【つくりつつあるもの・対話等】

知・技

- ・空き箱を工夫して、「小さなともだち」の家をつくる時の感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付いている。
 - ・はさみ、木工用接着剤などの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせている。
- 【つくりつつあるもの・観察等】

- 空き箱入れを用意し、休み時間等、いつでも箱の見本を見ることができるようになる。
- 題材名の「わくわく」の部分を工夫し、完成のイメージをもつことができるようにする。
- 友達作品を見る時間を作り、想像が広がるようにする。
- 教室の混雑を避けるために、廊下に材料を設置する。
- 厚紙でポンドペラを作り、適切な量で木工用接着剤を使うことができるようにする。
- 児童に声掛けをして今考えていることを聞き、一緒に創作活動を進めたり、考えたりすることを通して、児童が意欲的に取り組むことができるようにする。
- 児童が想像している「ともだちハウス」に近づくことができるように、自分の持っている空き箱1つにつき、空き箱入れの空き箱1つと交換できることを伝える。

知・技

思・判・表

主体的

題材名「わくわく」



ならべてみる



ひらいてみる



※「わくわく」を裏返す



つんでみる



上からみる



たてにしてみる



立ててみる

4 (展開45分)	ウ 友達の「ともだちハウス」にお出かけしよう。		<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">知・技</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">思・判・表</div> <div style="background-color: #FF8C00; color: white; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主体的</div> </div>
	<p>○ロイロノートを使って、自分の「ともだちハウス」の紹介や、「小さなともだち」と一緒に、遊びに行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんのおうちすべり台があって、楽しそうだな。 ・私も、お花畑つくったよ。 ・ふわふわのベッドで皆と一緒に寝ようよ。 ・合体させたら、もっと楽しくなるのかな。  <p>○感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんのおうちで、友達とプールに入って楽しかった。 	<p>思・判・表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともだちハウス」の造形の面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 <p>【発言・ロイロノート】</p> <p>主体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小さなともだち」の家を鑑賞する活動に取り組み、作りだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとしている。 <p>【発言】</p>	

7. 準備

児童： 「小さなともだち」・空き箱・木工用接着剤・のり・はさみ

教師： 「小さなともだち」（調味料入れ・ペットボトルキャップ・木製クリップ・丸型シール）
お花紙・色画用紙・ビニールテープ・梱包材・毛糸・ストロー・厚紙・紙・空き箱・おかず入れ
木工用接着剤・カラーペン

自分の空き箱1つと
空き箱入れの空き箱1つ
交換可能



梱包材



毛糸



空き箱入れ



空き箱



ストロー・おかず入れ



厚紙（ボンドペラ）・紙



色画用紙



お花紙



ビニールテープ

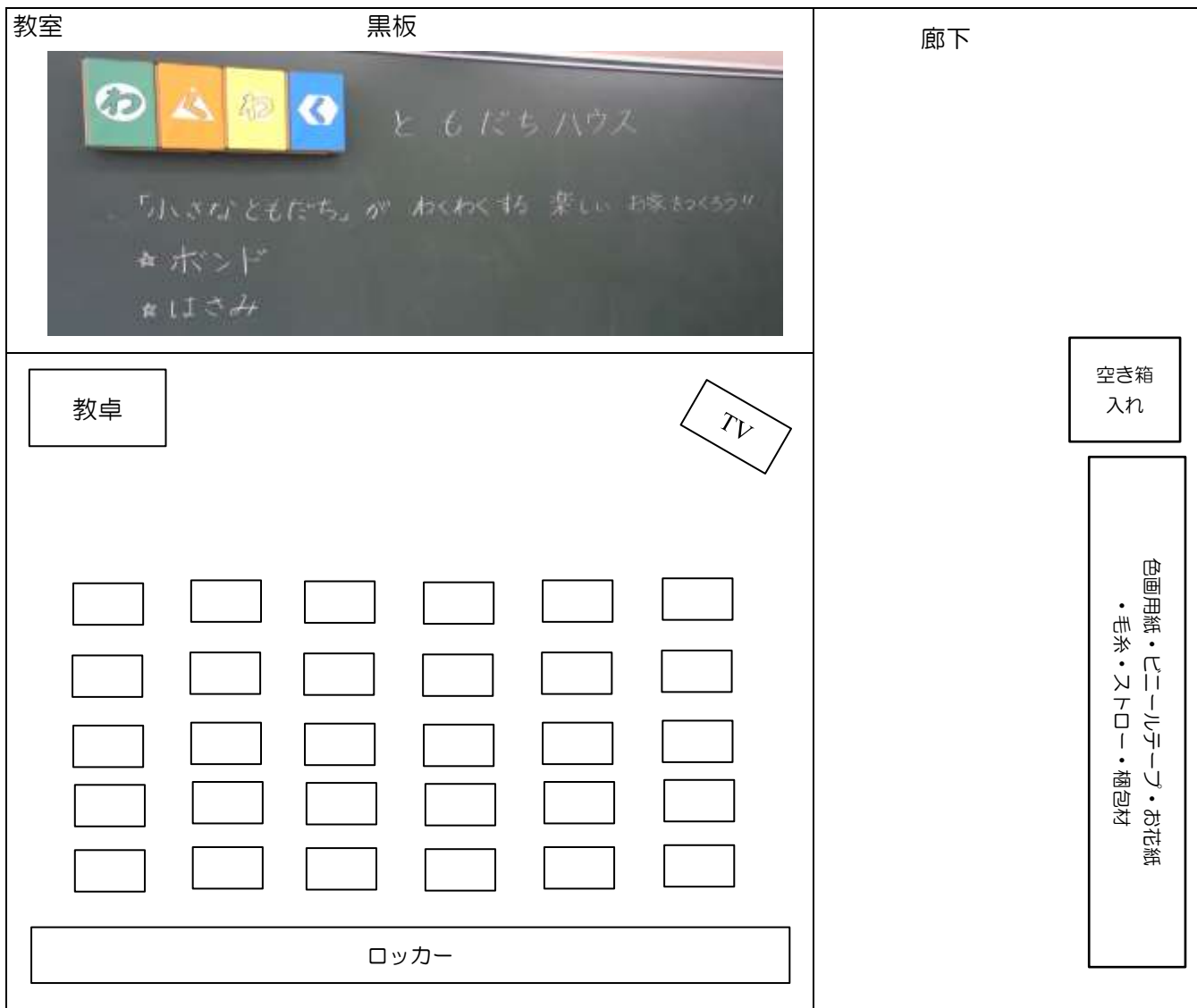


木製クリップ・調味料入れ・ペットボトルキャップ



シール・カラーペン

8. 場の設定



TV (ロイロノートの情報共有)



廊下 (白い机の上に材料を置く)



教室 (ロイロノート使用中)



(創作活動中)



(テレビ前)



10. 研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

★本題材の題材目標を達成するための評価規準の設定やそのための指導や評価について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>• 空き箱を工夫して、「小さなともだち」の家をつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付いている。 (知識)</p>  <p>→上の写真の児童は、接着をする前に箱の組み合わせ方を考えていた。</p> <p>○空き箱を使って、形や色にこだわった家をつくろうと声掛けをしたため、家具等に見立てられそうな小さな空き箱が不足していた。</p> <p>• はさみ、木工用接着剤などの扱いに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせている。 (技能)</p>  <p>→使う道具をはさみ、接着剤を木工用ボンドに絞ったため、扱いに十分慣れる時間をとれたと考える。上の写真は、厚紙を使って、ボンドを塗っているところ。</p>	<p>• 「小さなともだち」に触れて感じたことや想像したことから表したいことを見付け、「小さなともだち」の好きな形や色を選んだり、空き箱を使って「ともだちハウス」の形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 (発想・構想)</p>  <p>→上の写真の児童の小さなともだちは、黄色とわらうのが好きな「にこちゃん」なので、黄色の色を多く使った家を作った。</p> <p>○教師側が、空き箱以外の材料を多く提供してしまったので、発想が広がらなかったところがあった。</p> <p>• 「ともだちハウス」の造形の面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 (鑑賞)</p>  <p>→上の写真の児童の「ともだちハウス」には、平らな水色の大きな屋根があり、友達が指でトントン屋根をたたいたところから発想が広がり、水色の屋根の上にトントン相撲の土俵を思い付き制作した。</p>	<p>• 空き箱を工夫して、「小さなともだち」の家をつくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとしている。 (主体的)</p>  <p>→上の写真の児童は、休み時間に、友達の家と自分の家を合体させて、「ともだちハウス」で遊んでいた。</p>  <p>→上の写真の児童は、休み時間に、空き箱入れの中から好きな箱を探していた。</p>

★本題材における3つの工夫と1つの視点について

○出あいの工夫

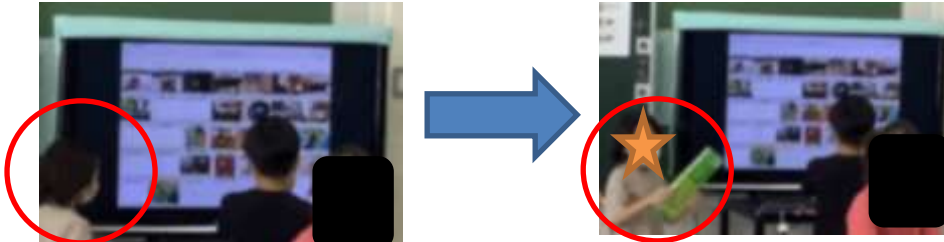


上の写真の児童は、「ともだちテント」で過ごす、他の児童の「ちいさなともだち」を見て、自分の友達をペットボトルのキャップにすることを決めた。水色・ピンク・白色が好き、転がるのが好き、住んでいるところは線路で、しゃしゃという名前を付けた。校舎内で、写真を撮る活動では、通気口の蓋を線路に見立てて写真を撮ったり、机の上を転がしたりした。制作の時には、箱が改札に似ているなということに気付いた。近くにいる友達と話しをする中で、駅にすることをきめ、おかず入れを列車に見立て2両作った。「ともだちテント」→「小さなともだち」を紹介→「ともだちハウス」という流れをとることで、思考の流れがわかりやすかったのではないかと考える。

○場の設定の工夫



いつも近くに、空き箱や作品があることで、中休みに友達と「小さなともだち」で遊んだり、友達の作品を見て想像を広げたりする児童が多くみられた。また、普段図工が苦手な児童も、作業に手が止まることなく作業に集中する姿や、「次は、〇〇をつくりたい」と言葉にする姿が見られた。また、友達同士で作り方を教え合う場面も見られた。左の写真は、毛糸を使った枕の写真である。この後、この児童は、周りにいた友達に作り方を教えていた。



左の写真の児童は、テレビの「小さなともだち」の紹介画面を見て、自分の「小さなともだち」の好きな色を確認し、空き箱の色を決めていた。

○共感的支援の工夫



教師が机間指導の中で声掛けをすることにより、児童が新しい表現を思い付いたり、何が困っているのかに気付くことができたりした。そして、その場、その場で話しをして、工夫を一緒に考えたり、作業を一緒に手伝ったりすることができた。左の写真の児童は、お花紙をカーテンに見立てたことだと思っていた。しかし、「人形劇」の看板を接着することに困っていたところに教師が声を掛けると、中に人形劇の舞台を作るという工夫をしていた。人形はお弁当に使う、キャラクター付きの爪楊枝を利用していた。

創作活動中に、友達のアイデアを取り入れることを認めていたため、児童の中には「友達に真似された。」という発言をする児童もいた。その際には、「真似されるくらい、素晴らしいアイデアだったんじゃないの?」といった声掛けを行っていった。すると、創作活動の最後の方には、「真似されたっていいよ。それくらい、すごいってことだ。」といった発言をする児童が増えた。

○小中一貫の視点

いろいろな形や色の空き箱を用意することができていた児童が多くいた。また、休み時間に作業をする児童や、自分から皆で使う材料を用意する児童がいた。私が、始める前に、準備が終わっていて、「さあ、やろう」という児童の意欲がとても伝わってきた。右の写真の紙袋には、家で自分が集めた、空き箱がぎっしり詰まっている。



★本校として、題材の位置づけや価値が適切であったかについて



主体的に学び、共に生きる子の育成を大切にしている本校においては、相手のアイデアを聞いたり、自分のアイデアを話したりする様子から、児童同士が自ら進んで関わりあいができた本題材は、適切であったと考える。左の写真の児童は、友達の作品で気になったところを質問している。右の写真の児童は、小さな空き箱を何かに活用できないか考えていたところ、近くの児童に「二段ベットにできるのではないか」というアイデアをもらい、その児童と一緒に箱を積んだり、立てたり、組み合わせたりして、二段ベットを制作した。地域とのつながりは、今回考えていなかったため、作品展等で幼稚園や地域の人に児童の作った作品を紹介していきたいと考える。



2. 「主体的で・対話的で深い学び」の視点を入れた授業改善における子どもの変容

★造形的な見方・考え方を働かせて主体的に活動に取り組んだり、材や友達との対話から形や色を基にイメージを広げて活動したり、工夫したりする姿が見られたかについて

【10. 内容についてのふりかえり1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント】より、造形的な見方・考え方を働かせて主体的に活動に取り組んだり、材や友達との対話から形や色を基にイメージを広げて活動したりする姿が見られた。児童は、完成や想像力を働かせながら「小さなともだち」と触れ合い、空き箱の形や色に注目し、積んだり、立てたり、並べたりする中で、自分の「ともだちハウス」のイメージをもちながら、空き箱に意味や価値をつくりだしていった。しかし、教師が空き箱の「大きさ」の違いにより、児童の発想が広がることを想定していなかったため、想像の幅を狭めてしまった部分がある。

★「主体的な学び」のための授業改善の視点

児童は、「小さなともだち」と自分なりの思いや願いをもち、「ともだちハウス」の創作活動に取り組んでいた。「ともだちハウス」を作る中で、箱を積んだり、開いたり、立てたり、斜めにしたりと自分の想像する家に近づくように試行錯誤を行っていた。また、制作中には、友達の創作活動にも興味をもち、積極的に質問をする姿も見られた。しかし、自分の変容を実感できる機会が少なかった。ロイロノートを使って、作業の終わりに、頑張ったところや次に工夫したいところ等を写真に残しておくこと、視覚的に「ともだちハウス」が発展していく様子が分かり、授業ごとに思考が途切れることなく、学習の積み重ねができる。また、「ともだちハウス」が完成した時に、自分の成長を実感できる機会につながるのではないかと考える。

★「対話的な学び」のための授業改善の視点

活動中や休み時間等、友達同士で箱の見立てをしている姿があった。一方で、自分の作業に集中している児童もいた。児童の見方や感じ方を広げるためには、制作中の「ともだちハウス」を児童同士、じっくりみる時間があってもよかった。みることで、席の近くの児童のアイデアだけでなく全員の児童のアイデアを知ることができるため、より広がったのではないかと考える。

★「深い学び」のための授業改善の視点

教師が、空き箱の形を四角や三角といった図形としての形としてとらえ、「大きさ」を意識していなかった。様々な大きさの箱が集まっていれば、家の外装だけでなく、内装も空き箱の形や色をいかした表現ができ、造形的な見方・考え方をさらに働かせていたのではないかと考える。また、教師側が、空き箱以外の材料を用意しすぎたために、それにとらわれ発想が広がらなかったところがあったため、ストローやおかず入れなどの材料は、見本だけにし、児童が自身の身の回りに目を向け、材料を集められるよう声掛けを行いたい。

「小さなともだち」をそばに置いて、制作活動に取り組んだが、そばに置くだけでなく、「小さなともだち」と一緒に考えながら作っていかうと声掛けをしてもよかったと考える。テーブルや椅子の大きさ、梯子の広さ等、「小さなともだち」のために大きさを考えながら作れたのではないかと考える。

共感的な支援（声掛け）が難しかった。どんな声掛けをすれば児童の想像が広がるのか学びたい。

児童の作品（製作途中）







